

教授

西原 真弓

■ 学歴

1. 1990 年 Arizona State University 修士課程修了

■ 学位

1. 1990 年 Master of Arts in English (修士 英語学)

■ 研究分野

1. 英語音声学
2. 英語教育学
- 3.

■ 研究キーワード

1. 英語イントネーション
2. Bloom's Taxonomy

■ 研究課題

1. 小学校英語教育で音声教育のために用いられるチャンツを分析対象とし、イントネーションの中でも特に日本人学習者に多い核強勢の誤配置について考察する。
2. Bloom's revised taxonomy を用いて、日本の英語教育における目標と評価の設定の仕方について考察する。

■ 担当授業科目

1. 英語学概論Ⅰ（前期）必修
2. 英語学概論Ⅱ（後期）選択
3. 実践英語音声学Ⅰ（前期）必修
4. 実践英語音声学Ⅱ（後期）必修
5. 専門演習Ⅰ（前期）選択
6. 専門演習Ⅱ（前期）必修
7. 欧米文化交流研修（前期）選択
8. リーディングⅢ（前期）選択
9. 英語教科教育法Ⅱ（後期）選択
10. 英語教科教育法Ⅲ（後期）選択
11. 英語教科教育法Ⅳ（後期）選択
12. 英語教科教育法Ⅴ（前期）選択
13. 教職実践演習（中・高）（後期）

■ 授業を行う上で工夫した事項

※ 助教・助手については、実習・演習等の指導を行う上で工夫した事項

1.	授業科目名【英語学概論Ⅰ・Ⅱ】 専門的な分野であるため、それぞれの理論を、学生がわかりやすく・役に立つと感じられるよう説明の際使用する例文や状況を工夫した。授業内外で学習した事項に関する事例を探させ、クラスの皆で共有することで理解を深めた。また、質問しやすい雰囲気づくりを心掛けた。
2.	授業科目名【実践英語音声学Ⅰ・Ⅱ】 英語音声学の理論的事象を実践を通して理解できるよう工夫した。40名弱の学生を一斉に指導しなくてはならないため、個々の発音の矯正は録音したものを提出させコメントをつけて返却したり、一人一人を授業外でよび、中間、期末の発音のテストを行った。その際、必ず録音をして学生自身が自己評価をするようにした。全員に発音の向上が認められたことを自身で確認することができた。
3.	授業科目名【欧米文化交流研修】 初めての海外インターンシップを実施した。オーストラリアのシドニーで参加者一人ずつが別々の職場に配置されるため、事前指導でできるだけ自信をつけることができるように心がけた。研修中も毎日ラインで各学生の様子を確認した。全員が3週間の研修を無事終え、学生たちの成長やプログラムの教育効果が見られた。
4.	授業科目名【リーディングⅢ】 長文読解のコツを掴ませることを大切に、リーディングのスキルを教えた。スキミングやスキニング、リテリングなどを組み合わせて行ったり、直読直解する習慣をつけるよう速読の練習も行った。最も工夫した点は題材選びである。学生が興味を持ちそうな社会的、文化的なテーマで、ニュース、TED Talk、賛成/反対がある意見文などを用いた。
5.	授業科目名【専門演習Ⅰ・Ⅱ】 ゼミのテーマが「ことばと文化」であるため、題材を映画翻訳、日英映画比較、絵本比較、広告比較などで行った。反転授業で、自宅学習をしてきたものに対し、授業内で学生同士がディスカッションをするというスタイルで行った。各学期の最終発表では学生たちのオリジナルの視点での文化広告比較を行うことができた。
6.	授業科目名【英語教科教育法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ】 基礎となる英語教育に関する理論を理解するⅡ、模擬授業を中心とした実践的な学びをするⅢと、理論的な枠組みで実践を振り返りながらさらに深く考える力を身につけるⅣ、さらに教育現場での教育実習を挟んだⅤが、それぞれ相乗効果をもたらすことができるように工夫した。学生自身でお互いに評価し合う中で、授業づくりの視点をしっかり持ち、自分の授業を振り返ることができるようにした。学生間でより効果的にコメントをしあえるための環境づくりや声掛けに心がけた。

■ 学会における活動

	加入時期	所属学会等の名称	役職名等（任期）
1.	1991	全国英語教育学会	

2.	2021	日本英語教育音声学会	理事
3.	2017	小学校英語教育学会	

■ 研究業績等に関する事項（2023 年度）

	発行又は 発表の年月	著書、学術論 文等の名称	単著・ 共著の別	発行所、発表雑 誌等又は発表学 会等の名称	概 要
（著書）					
1.					
2.					
（学術論文）					
1.	2025 年 1 月	発 音 指 導 に おける教育 目 標 の 明 確 化：ブルーム の 改 訂 版 タ キ ソ ノ ミ ー の 活 用	単 著	『英語教育音声 学』第 4 号, 99- 112.	英語コミュニケーションにおいて発音 は非常に重要な要素であるにも関わら ず、効果的な発音の指導方法は確立して いない。この課題を解決するために、ブ ルームの改訂版タキソノミーを用いて 発音教育の目標設定を明確化すること を提案した。さらに、この目標分類に従 いできる活動を具体的に提示した。
3.					
（翻訳）					
1.					
2.					
3.					
（学会発表）					
1.	2024 年 5 月 26 日	発 音 指 導 に おける教育 目 標 の 明 確 化：ブルーム の 改 訂 版 タ キ ソ ノ ミ ー の 活 用	単	第 4 回英語教育 音声学会全国大 会	効果的な発音指導の方法を確立するた めの指針としてブルームの改訂版タキ ソノミーを利用することを提案した。そ れにより、これまで行われている活動や 今後できる活動を具体的に分類しなが ら目標を明確化することができること を示唆した。
2.					
3.					

■ 外部資金（科学研究費補助金等）導入状況（本学共同研究費を含む）

（1） 共 同 研 究				
	研 究 題 目	交付団体	研 究 者	交付決定額

			○代表者（ ）内は学外 者	(単位：円)
1.				
2.				
3.				

(2) 個人研究				
	研究題目	交付団体	交付決定額 (単位：円)	備考
1.				
2.				
3.				

■ 社会における活動

	任 期 期 間 等	団体・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024 年 8 月	諫早市中学校英語教員研修	講師
2.	2025 年 2 月	東彼杵町中学校英語教育研修	講師

■ 学内における活動等（役職、委員、学生支援など）

	任 期 期 間 等	会議・委員会等の名称 (内 容)	役 職 名 等
1.	2024.4-2025.3	教務委員	
2.	2024.4-2025.3	FD 委員	
3.			